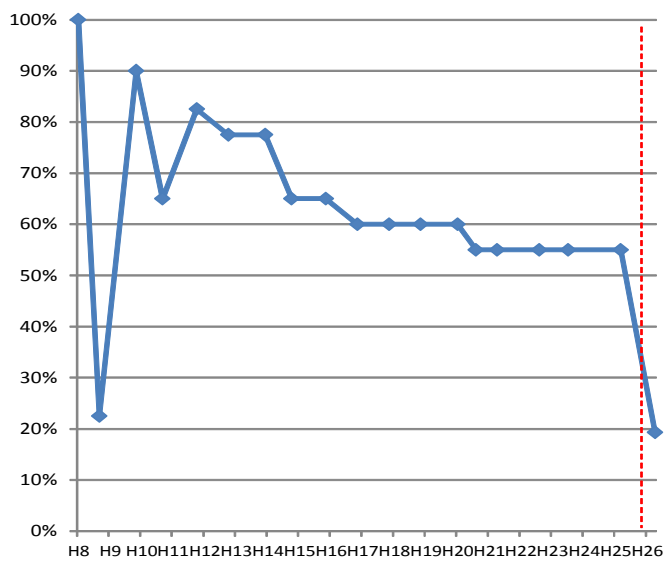


樹種名	ミズキ	
科 目	ミズキ科	
学 名	<i>Swida controversa</i>	
分 布	北海道、本州、四国、九州に分布し、各地で広く生育する。国外では、朝鮮半島、台湾、中国からヒマラヤの山地にまで分布する。	
樹木特性	陽樹であり、平地から山地まで生育し、土壌の深いやや湿った場所を好む。暗い環境では成長はしないことから耐陰性は低い。幹が直立することから、萌芽更新を行う雑木林では株立ち状となり、萌芽力は強い。このことから、伐採すると切り株から萌芽する。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約 20 cm未満で萌芽本数は 10 本程度である。さらに、萌芽発生が見込まれる最大の切り株直径は約 20~30 cmである。 生育環境が良好な場合では、寿命は最大樹齢が 100 年以上と推定され、埋土種子は休眠するが、寿命は短い。	
用 途	街路樹、建築・食器・箸・杖・下駄・こけし材に利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	259 本／0.04ha (約 3800 本／ha)	
特 徴	【樹 形】 ミズキはミズキ科ミズキ属の落葉高木。樹高は 10~15m。枝を扇状に四方に広げる。若枝は紫紅色で、はじめ細かい毛をもつが、のちに無毛になる。葉は長さ 2~5cm の葉柄をもって互生し、広卵形から楕円形で縁は全縁、先はとがる。裏面は白く、弓形に曲がった 5~9 対の葉脈が隆起する。花期は 5 月から 6 月。新枝の先に多数の白色 4 弁の小白色花を散房花序につける。果実は核果、球形で紫黒色をしている。春期発芽前に幹や枝を傷つけると多量の水分が滲出するのが名の由来。湿気のある肥沃な深層土を好み、主として緩傾斜地または谷間に生育し生長は早い。成木は浅根性である。	
試験地での様子	ポット苗を植栽したが、植え付け時期（5 月）が遅く、約 8 割が枯死した。枯死した理由として、すでに成長を始めていた白根を損傷させたことが原因と思われる。このことから、平成 9 年 4 月に補植を実施したが、補植苗が平均根元径 3mm 樹高 35cm 程度と小さく初期成長も小さかったため一部の苗木は枯死した。さらに植栽後、コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。活着後の生育状況は良好であり、現在では 9m 程度にまで成長している。	
被 害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数 コウモリガ：8 本、カミキリムシ類：3 本)	

ミズキ 現存率



【現存率】

植栽直後に約 8 割が枯死した。枯死の原因としては、植付時期が遅く、既に活動しはじめていた白根の損傷と思われる。

また、補植後にはコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。

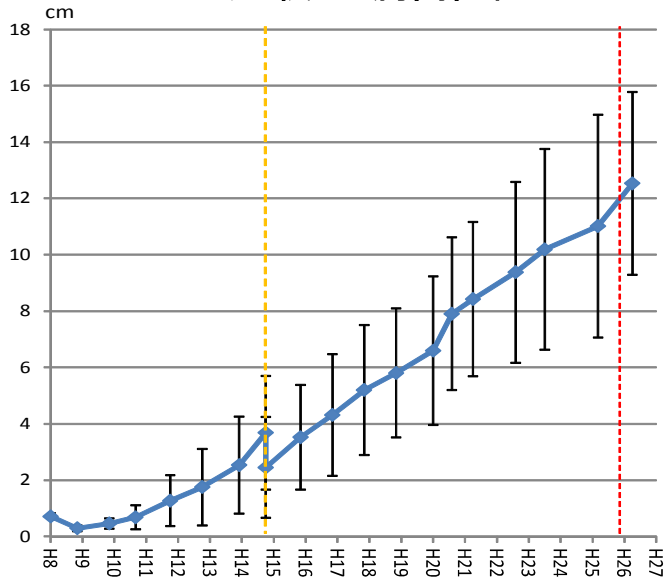
平成 20 年度以降の枯死は見られない。

林内の照度調整を図るため平成 20 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 19.3%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ミズキ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

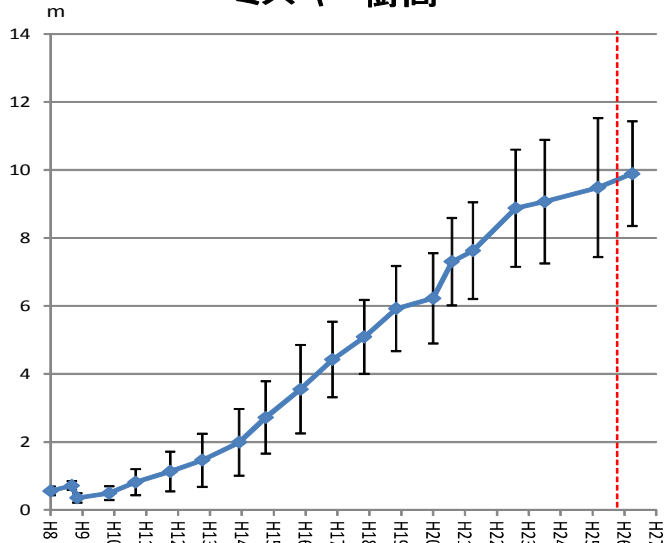
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 12.53cm であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ミズキ 樹高



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 9.89m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。



《プチ情報》

材は加工が容易で塗装仕上げも良く用途も広いが、材がまとまって生産されることがないため小規模な利用が多く建築材、器具材、彫刻材、薪炭材などに利用されていた。